

教科 科目	国語 国語 1	学 年	1 年	単 位	5 単位	担 当	恒住 典子
【科目の概要】 国語としての日本語を正しく身に付け、理解し、その運用能力を高めることを目標としています。具体的には、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことに関心を持ち、意欲的に取り組み、自分自身で考え、論述・発言できる力を身につけられるように学習します。							
【育成をめざす学力】 ①自学（予習・復習など）できる力 ②漢字・慣用句・古語・文法事項・古典常識・漢文句法などに関する基礎的な力 ③多様なテキスト（説明文・物語文・解説文・韻文・思想・史伝など）を読解する力 ④テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ⑤出題形式に応じて解答できる力							
【評価基準・評価項目】 ・授業理解に必要な予習、復習を行うことができる。 ・漢字、語句、文法を習得し、正確に音読することができる。 ・登場人物の心情や状況を理解し、筆者の主張を読み取ることができる。 ・感想文や意見文を書き、自分の考えを表現することができる。 ・質問に応じて解答することができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	詩「朝のリレー」 物語「オオカミの友だち」 葉書の書き方(旧師謝恩)						
5月	説明「ペンギンの防寒着」 説明「クジラの飲み水」 言語「ことばの単位・文節の関係」						
6月	物語「注文の多い料理店」						
7月	随筆「字のない葉書」 表現「体験文を書こう」「鑑賞文を書こう」 書写						
8月	言語「単語の類別・品詞」						
9月	説明文「食感のオノマトペ」						
10月	古文「竹取物語」 故事成語「矛盾」						
11月	説明文「玄関扉」 詩「見えないだけ」						
12月	小説「少年の日の思い出」 書写						
1月	随筆「この小さな地球の上で」						
2月	小説「トロッコ」						
3月	「文法のまとめ」 問題演習 書写						

教科 科目	社会1(地理的分野)	学 年	1年	単 位	2単位	担 当	古賀 彩香
【科目の概要】							
<p>古くから人間は自然を活用し、あるときは自然を克服して生活をしてきました。自然条件は地域によって異なります。人間はこうした異なる自然に向かう中でさまざまな生活を生み出してきたのです。地理はさまざまな地域の自然条件を理解し、その自然と向き合ってきた人間のくらしを学ぶ科目です。そして、自然と向き合う中で人間が作り出してきたものから、成果と課題を考える科目です。1学年では、このうち、世界の諸地域と世界の中での日本をテーマとして取り扱いながら地理を学んでいきます。</p>							
【育成を目指す学力】							
<ul style="list-style-type: none"> ・世界と日本の地域性と地域構造を理解するための基本用語を習得する力 ・基本用語間の関係を把握しながら、学習内容を整理する力 ・基本用語を具体的に使いながら、学習内容を説明する力 ・資料(地図、表、グラフなど)を読み取る力 ・学習内容を地域理解や社会認識につなげる力 ・学習内容から得た地域観や社会観を評価する力 							
【評価基準・評価項目】							
<ul style="list-style-type: none"> ・学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる(社A①) ・基本用語間の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる(社A②) ・基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる(社A③) ・単元の学習内容を通じて、各地域の「地域理解」「社会認識」の特殊性・普遍性を判断できる(社B①②) ・各地域の「地域理解」「社会認識」について自分の価値観に照らして評価できる(社B③) ・社会問題から解決課題を発見し、学習内容を活用しながら解決策を提示できる(社C①～⑤) ・学習過程において地図、写真、グラフ、文章等の資料を読み取ることができる(社A④) ・学習過程において必要な情報を収集し地図、写真、グラフ、文章等の資料として提示できる(社B④、C①～⑤) ・学習成果を通じて、学習内容に関する習得、理解、活用状況を検証し、改善できる(社A⑤、B⑤、C⑥) ・学習過程を通じて、地理学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる(社C⑦) 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	オリエンテーション 1 世界のすがた(大陸と海洋、地球儀と地図)						
5月	1 世界のすがた(緯度と経度) 2 世界各地の生活と環境(寒帯、亜寒帯、温帯、乾燥帯、熱帯) 3 アジア(地形と気候)						
6月	3 アジア(生活と文化、産業、中国、インド、西アジア、東南アジア)						
7月	4 ヨーロッパ(地形と気候、生活と文化、産業、EU、ロシア)						
8月	5 アフリカ(地形と気候、生活と文化)						
9月	5 アフリカ(産業、砂漠化問題) 6 北アメリカ(地形と気候)						
10月	6 北アメリカ(生活と文化、産業、アメリカ合衆国) 7 南アメリカ(地形と気候)						
11月	7 南アメリカ(生活と文化、産業、ブラジル、熱帯雨林の減少) 8 オセアニア(地形と気候、生活と文化、産業、オーストラリア)						
12月	9 世界から見た日本(地形、気候、災害、人口)						
1月	9 世界から見た日本(資源、エネルギー、産業)						
2月	9 世界から見た日本(交通・通信) 10 九州地方(地形、気候)						
3月	10 九州地方(産業)						

教科 科目	社会1（歴史的分野）	学 年	1年	単 位	2.5単位	担 当	室田 悠子
【科目の概要】 「歴史は過去と現在との対話である」ということばがあります。私たちが過去のできごとを学び、過去に対する理解を深めることは、私たちが生きる現代を過去に照らしてとらえ、現代から未来の社会をつくることにつながります。1学年では、小学校で学んだ歴史の知識に新しい知識を加えながら、さまざまなできごとの原因と結果や影響を考え、歴史の流れとつながりを理解していきます。また、世界の中での日本を認識しながら日本の文化や伝統、「歴史的なできごと」をいろいろな角度からとらえることで、歴史に対する理解を深めていきます。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 近世史前半までを理解するために必要な基本用語を習得する力 ・ 基本用語同士の関係を把握しながら、学習内容を整理する力 ・ 基本用語を具体例として使いながら、学習内容を説明する力 ・ 資料（地図、図版、グラフ、文書等）を読み取る力 ・ 学習内容を人間理解や社会認識につなげる力 ・ 学習内容から得た人間観や社会観を評価する力 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる（社A①） ・ 基本用語同士の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる（社A②） ・ 基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる（社A③） ・ 単元の学習内容を通じて、各地域・時代の「人間理解」「社会認識」の特殊性・普遍性を判断できる（社B①②） ・ 社会問題から解決課題を発見し、学習内容を活用しながら解決策を提示できる（社C①～⑤） ・ 学習過程において図版、地図、グラフ、文章等の資料を読み取ることができる（社A④） ・ 学習成果を通じて、学習内容に関する習得、理解、活用状況を検証し、改善できる（社A⑤、B⑤、C⑥） ・ 学習過程を通じて、歴史学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる（社C⑦） 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	人類の誕生と古代文明（人類の誕生、古代文明）						
5月	人類の誕生と古代文明（中国文明） 日本の国のはじまり（縄文文化と稲作のはじまり）						
6月	日本の国のはじまり（大和政権と渡来人の活躍） 古代国家のあゆみ（厩戸皇子の政治と大化の改新）						
7月	古代国家のあゆみ（平城京と律令政治） 平安の都と武士のおこり（平安京・摂関政治、院政、平氏の政治と貴族の文化）						
9月	武家政権のはじまり（鎌倉幕府、執権政治と元寇）						
10月	内乱と下剋上の時代（室町幕府、日明貿易、村の自治と一揆）						
11月	内乱と下剋上の時代（戦国大名と武士の文化）						
12月	ヨーロッパの世界進出（イスラム世界、宗教改革と大航海時代）						
1月	武家の全国統一（南蛮貿易、信長と秀吉の政治、桃山文化）						
2月	武家の全国統一（信長と秀吉による全国統一）						
3月	江戸幕府の成立と政治（江戸幕府の成立、鎖国政策）						

教科 科目	数学 1	学 年	1年	単 位	5単位	担 当	脇田 祥弥 山崎 隼之介
【科目の概要】 数を初めて正・負にまで拡張し、数の概念についての理解を深めていく。数学のことばである数式を用いることの意味や方程式の意味を理解することで、数量の関係や法則を一般的に表現したり簡潔に処理できるようになる。また図形の観察・操作・実験や数量関係の具体的な事象を調べることを通して、直感的な見方や論理的な考察をする力の基礎を培っていく。							
【育成をめざす学力】 ① 学習の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力 (F, G) ② いろいろな問題の解決に向けて、根拠を明らかにし、筋道を立て、体系的に考えることのできる力 (C, D) ③ いろいろな問題の解決に向けて、言葉や数、式、図、表、グラフなどの関連を理解し、活用できる力 (A, B) ④ 学習活動を通して、自分の考えを説明、表現できる力。(E) ⑤ 数学を学ぶ意欲を高め数学的な見方や考え方のよさを実感し、それらを通して考えたり判断したりできる力 (D)							
【評価基準・評価項目】 (数と式) ① 正の数・負の数の意味を理解し、四則演算が正確にできる。四則計算の可能性について整理してまとめることができる。 ② 文字を用いて関係や法則を表現し、式の計算ができる。等式や不等式の意味を考え、表現できる。 ③ 方程式の意味を理解し、方程式を用いて問題解決ができる。 (数量関係) ① 事象の中から伴って変わる2つの数量を見つけ、関数関係を表、グラフ、式で表せる。 ② 比例・反比例のほかにも関数が存在することを理解し、その式やグラフの特徴を理解できる。 (図形) ① 条件を満たす図形を見通しをもって作図できる。移動の考えをもとに、多様な図形の見方ができる。 ② 空間における直線や平面の位置関係が理解できる。簡単な投影図を見て、もとの立体を読み取ることができる。 ③ 体積や表面積などの計量ができる。 (資料) ① 資料のちらばりの様子を多様な方法で、とらえることができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							【テスト】
4月	第1章：正の数と負の数 (1. 正の数と負の数、2. 加法・減法)						ベネッセ模試
5月	第1章：正の数と負の数 (3. 乗法と除法、4. いろいろな計算) 第2章：文字と式 (1. 文字と式、2. 文字式の計算)						1学期中間考査
6月	第3章：1次方程式 (1. 一次方程式)						1学期期末考査
7月	第3章：1次方程式 (2. 一次方程式の利用)						
8月	第3章：1次方程式 (2. 一次方程式の利用)						
9月	第4章：比例と反比例 (1. 比例)						実力考査
10月	第4章：比例と反比例 (2. 反比例、3. 比例と反比例の利用)						2学期中間考査
11月	第5章：平面図形 (1. 平面図形、2. 作図、3. 円とおうぎ形) (発展) 数の規則性						ベネッセ模試
12月	第6章：空間図形 (1. 空間図形、2. 立体の表面積と体積)						2学期期末考査
1月	第6章：空間図形 (2. 立体の表面積と体積)						実力考査
2月	第7章：資料の整理とその活用 (1. 資料の整理とその活用) 2年生の教科書 第1章：式の計算 (1. 式の計算)						学年末考査
3月	2年生の教科書 第1章：式の計算 (1. 式の計算) および 1年生の総復習						

教科 科目	理科 1	学 年	1 年	単 位	4 単位	担 当	田中宏樹・廣田裕枝
<p>「植物の生活と種類」：身近な生物についての観察，実験を通して，生物の調べ方の基礎を身につけます。植物についての観察，実験を通して，植物の体のつくりとはたらきを理解し，植物の種類やその生活についての認識を深めます。</p> <p>「物質のすがた」：身のまわりの物質についての観察，実験を通して，固体や液体，気体の性質，物質の状態変化について理解するとともに，物質の性質や変化の調べ方の基礎を身につけます。</p> <p>「身近な物理現象」：身近な事象・現象についての観察，実験を通して，光，音の規則性，力の性質について理解するとともに，これらの事象を日常生活と関連づけて科学的にみる見方や考え方を養います。</p> <p>「大地の変化」：大地の活動のようすや身近な岩石，地層，地形などの観察を通して，地表に見られるさまざまな事象・現象を大地の変化と関連づけて理解し，大地の変化についての認識を深めます。</p> <p>「化学変化と原子・分子」：化学変化についての観察，実験を通して，化合，分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解するとともに，これらの事象を原子，分子のモデルと関連づけてみる見方や考え方を養います。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <p>興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。観察・実験における技能を習得し、その結果を科学的な考察を交え、文章や図・グラフ等を用いて正確に表現する力。知識と与えられた条件から予想する力根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。文字式を活用することができる力。資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力。分析したり考察したりする力。複数の単元で学習した内容を組み合わせて活用する力。</p>							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <p>身近な事象・現象に興味・関心をもって調べることができる。身近な事象・現象に関する知識を身につけ、日常生活との関連を見いだすことができる。観察・実験に必要な器具を操作することができる。観察・実験の結果をスケッチや文章で的確に記録することができる。安全に十分配慮して実験をおこなうことができる。観察・実験の過程、結果および考察を報告書にまとめることができる。身近な事象を分類して共通性や多様性を見出すことができる。数学的な手法や表記法を用いて諸現象を論理的に考えることができる。図や表を、文章での記述と対比して読み取ることができる。</p>							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4 月	身近な生物の観察						
5 月	植物の体のつくりとはたらき						
6 月	植物のなかま分け 火山						
7 月	地震						
8 月	地層						
9 月	大地の変動						
10 月	光の性質						
11 月	音の性質 力と圧力						
12 月	力と圧力						
1 月	いろいろな物質 気体の発生と性質						
2 月	物質の状態変化 水溶液						
3 月	物質の成り立ち（これより 2 年次の内容）						

教科 科目	音楽 1	学 年	1 年	単 位	2 単位	担 当	爲頼 康子
【科目の概要】 週 2 時間の授業を通して、楽しく音楽の基礎を学びます。発声について、音楽鑑賞について、音符・記号について等、基本的な事柄の習得を目指します。楽譜については、ト音譜表が読めるように読譜練習をします。また、器楽ではアルトリコーダーを取り入れます。尚、授業の中では讃美歌も練習し、レパートリーを増やしていきます。							
【育成をめざす学力】 ・音符の名称、長さの割合、音楽記号・用語・標語を理解する力。 ・ト音譜表を読む力。 ・正しい発声でのびのびと歌う力。 ・アルトリコーダー演奏技術を習得する力。 ・想像豊かに音楽を鑑賞する力。 ・歌唱、合奏活動を通して自分を表現し、同時にクラスメイトと仲間意識を持って音楽活動を楽しむ姿勢。							
【評価基準・評価項目】 ・興味・関心を持って授業に参加することが出来る。 ・大きな声でのびのびと歌唱することが出来る。 ・アルトリコーダーの演奏に慣れる。 ・音楽の基礎知識を理解することが出来る。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	讃美歌コンクールに向けて 音符や記号を覚えよう ブレスの仕方、声の出し方を考えてみよう						
5 月	讃美歌コンクールに向けて 音符や記号を覚えよう (演習プリント、リズムゲームプリント)						
6 月	曲のまとまりを感じ取ろう 「主人は冷たい土の中に」 実技テスト (歌唱) 期末考査						
7 月	アルトリコーダーに親しもう 「喜びの歌」「かっこう」 1 学期のまとめ						
8 月	曲想の変化を感じ取りながら鑑賞しよう 「春」						
9 月	情景を思い浮かべながら表情豊かに歌おう 「浜辺の歌」 合唱曲に取り組もう「君をのせて」 「Forever」						
10 月	詩の内容と曲想との関わりを感じ取りながら鑑賞しよう 「魔王」 言葉を大切に歌おう 「赤とんぼ」						
11 月	言葉を大切に歌おう 「赤とんぼ」 クリスマス礼拝準備 (「ハレルヤコーラス練習」) アルトリコーダーに親しもう 「オーラ・リー」 「アニー ローリー」 実技テスト (歌唱)						
12 月	クリスマス礼拝準備 (「ハレルヤコーラス練習」) クリスマスの讃美歌に親しもう 2 学期のまとめ						
1 月	日本の伝統音楽に親しもう (鑑賞) 「巢鶴鈴慕 (鶴の巢篋)」 箏曲「六段の調べ」						
2 月	英語の歌にチャレンジしよう (ディズニーの名曲) 実技テスト (アルトリコーダー)						
3 月	学年末考査 1 年間のまとめ						

教科 科目	美術 1	学 年	1 年	単 位	1.5 単位	担 当	竹富 栄治
【科目の概要】 視覚表現の楽しさを味わいながら、イメージを視覚化する基本的な知識と技術を学びます。自由に描きながら絵の具の可能性を探ったり、空間を表現する面白さを体験します。また色の持つ不思議な効果についても学びます。							
【育成をめざす学力】							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 色・形で表現する際の基本的技術 ・ 自然物・人工物に目を向けその価値を見出し、その背景を想像していこうとする力 ・ 表現することに価値を置き有効な表現手段を探り、表現する力 ・ 道具・技法等を目的に応じて使いこなす力 							
【評価基準・評価項目】							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然や身の回りの物からその良さや美しさを発見し、意欲的に表現に結びつけることができる。 ・ 豊かに発想し構想することができる ・ 多様な表現様式・方法を理解し、自己の表現に活かすことができる ・ 美術作品の美しさや面白さを発見することができる 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	美術を知る						
5 月	鉛筆で描く						
6 月	人物を描く 人物画の良さを知る						
7 月	全体と部分をとらえる 明暗を描き分ける 水彩画の味わいを活かして描く・完成・鑑賞						
8 月							
9 月	透視図法を学ぶ（一点透視図法と二点透視図法の基本と応用） 奥行きのある空間を表現する						
10 月	線と色で奥行きのある空間を描く・完成・鑑賞						
11 月	形や色で伝えるさまざまな方法を学ぶ						
12 月							
1 月	色彩を学ぶ						
2 月	色の性質を学ぶ						
3 月	美しい色の使い方、用途に応じた配色のしかたを学ぶ						

教科 科目	保健体育 体育	学 年	1年	単 位	3単位	担 当	浦元 久美子 有田 初枝
【科目の概要】 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動ができる能力と態度を育てる。 健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、健康の増進と体力の向上を図る。							
【育成をめざす学力】 ◇生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力。 ◇健康・安全管理能力 ◇体力向上。							
【評価基準・評価項目】 ・自己の能力に応じて、運動の技能を高め、技が円滑にできる。 ・チームの課題解決を目指して、作戦を立て、練習やゲームの仕方を工夫することができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	1 体育実技の受け方のオリエンテーション 2 集団行動						
5月	ラジオ体操第2の練習(含) 3 バレーボール(6人制)						
6月	① パス・レシーブ・トス						
7月	② アタック・サービス						
8月	③ サービスレシーブ ④評価						
9月	4 剣道 ① オリエンテーション 剣道の歴史・用具の説明・マナーと安全 ② 礼法 1						
10月	③ 礼法 2 ④ 構え方と素振り ⑤ 評価						
11月	6 体づくり運動 ① 体力テスト ②自分の体の特徴に合ったトレーニング						
12月	7 バスケットボール ① パス						
1月	② ドリブルシュート・ランニングシュート ③ 攻防の練習						
2月	④ 評価 ⑤ゲーム						
3月	⑥ 引き続きゲーム						

教科 科目	技術・家庭1	学 年	1年	単 位	2単位	担 当	松本 智恵
<p>【科目の概要】</p> <p>技術・家庭科では、よりよい生活をしていくために、生活に必要な知識や技術を理解し、実際の生活の中でいろいろな課題を解決する方法を学びます。生活するためには、知っているだけでなく、実際に手や体を動かして体験することが必要です。そのために実習を行い、その過程で生活を工夫し、創造する能力やものをつくる技術を習得します。また、生活の基盤である家庭の役割や、家族や周囲の人々の支え合いの大切さについて学び、周囲の人々との豊かなかかわり方を工夫したり、自分のくらしと環境のかかわりについて考えたりして、実践する力を養います。これらの学習を通して生活の自立と共生のための基礎的な考え方や知識・技術を身につけ、生活を工夫し、創造するのが教科の目的です。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集し、活用する力 ・課題に対して様々な角度から考える力 ・自分の考えをまとめる力 ・生活をよりよいものに改善していこうとする意欲や創意工夫する力 							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族や家庭、衣生活についての基本的知識を習得できている。 ・幼児や家族について理解し、すすんで交わろうとすることができる。 ・衣生活についての基礎技術を習得できている。 ・安全に配慮し、グループのメンバーと協力して実習を行うことができる。 ・学習内容に関するスクラップブックを作成し、その内容を要約して発表することができる。 ・必要な情報を収集し、自分の考えをまとめて発表することができる。 							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4月～ 7月	<p>「私たちの衣生活」 基礎縫い／「わたしたちの成長と家族・地域」</p> <p>1. 家族・家庭と地域</p> <p>(1)家庭や家族の機能について考えよう (2)中学生としての自立を考えよう</p> <p>(3)家庭生活と地域との関わりを考えよう</p> <p>2. 幼児の生活と家族</p> <p>(1)幼いころを振り返ろう (2) (3) (4)幼児の体の発達、心の発達、生活習慣の習得について考えよう (5)幼児の生活と遊びを知ろう (6)幼児との関わり方を考えよう</p> <p>(7)幼児との関わり方についてまとめよう (8)子どもにとっての家族について考えよう</p>						
8月～ 9月	<p>○保育園訪問</p> <p>3. これからの私と家族 (1)中学生にとっての家族について考えよう</p>						
10月～ 12月	<p>「私たちの衣生活」 1. 衣生活と自立 (1)衣服の働きを考えよう</p> <p>(2)T.P.Oを踏まえた自分らしい着方を工夫しよう (3)衣服の計画的な活用方法を考えよう</p> <p>(4)必要な衣服を選択しよう (5)衣服の手入れをしよう (6)よりよい衣生活を目指して</p>						
1月～3月	<p>2. 生活を豊かにするための工夫をしよう</p> <p>○被服作品製作</p>						

教科 科目	英語 1	学 年	1 年	単 位	6 単位	担 当	松下・宇高 天野ムチャレジス
【教科・科目の概要】 英語は今や世界の共通語となっています。英語が使えるようになることで、皆さんの世界が広がっていくことはまちがいありません。英語の学習を通して、世界に目を向け、様々な国の文化や思想の違いについて理解を深めると共に、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、実践的コミュニケーション能力の基礎を養います。6 単位のうち、2 単位をオーラルコミュニケーションの授業とし、クラスを 2 つに分けて、少人数のクラスで、ネイティブ教師と日本人教師がそれぞれ別々に、英語を聞いて即座に英語で答えることのできる力を養っていきます。4 単位は、まず SSH (Sound Spelling Harmony) で、英語の発音の仕方、英語の音とつづりとの関係を丁寧に学習し、BB カードも使いながら英語学習の土台を築きます。2 学期から教科書を使って、語彙力、文法力をつけながら、英語で話したり、書いたりする活動を行います。							
【育成をめざす学力】 Reading 速くそして正確に英文の内容を読み取る力 Listening 目的をもって展開を予測しながら聴き、内容を把握する力 Speaking / Writing 身近な話題について自ら考え、積極的に英語で表現する力							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・ Speaking: 英語での簡単な受け答えができる。 自分について、30 秒程度のスピーチをすることができる ・ Writing: BB カードを活用し、簡単な英文を書くことができる ・ Reading: 短い英文を読み、理解することができる ・ Listening: 簡単な問いかけを正しく聞き取ることができる 英語にあって日本語にない「音」を聞き分けることができる ネイティブの先生の指示を正確に理解することができる 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	ブロック体大文字・小文字・アルファベットの家族分け・筆記体小文字・大文字						
5 月	子音のニックネームと母音 (基本音・アルファベット音)・BB カード						
6 月	母音 (基本音・アルファベット音)・BB カード						
7 月	母音 (特別音)・すべり音・気むずかし屋の w 君・BB カード						
8 月	音節区切り・音の弱まり・BB カード・教科書 Program 1						
9 月	Program 2~4 一般動詞の文・be 動詞の文・名詞の複数形・How many~? の疑問文						
10 月	Program 5~6 命令文・3 単現の s						
11 月	Program 7~8 Can の文・代名詞・Who~? や When~? の疑問文						
12 月	Program 8 英検 5 級対策						
1 月	Program 9 現在進行形・英検 5 級対策						
2 月	Program 10~11 規則動詞の過去形・不規則動詞の過去形						
3 月	総復習 (まとめ) 不規則動詞の活用表						

教科 科目	聖書	学 年	1年	単 位	1単位	担 当	塩屋 優子
【科目の概要】 ミッションの意味，聖書科で何を学ぶのかを知る。 キリスト学校の土台となっているキリスト教の入門であり，キリスト学校で学ぶことの意義を考 える。後半はイエス・キリストの誕生から生涯の前期を学ぶ。							
【育成をめざす学力】 A. 聖書と教会を理解するための知識を習得し、整理する力。 B. 知識を活用（分類・分析）して聖書や教会を解釈する力。 C. 知識を活用（分類・分析）して自分自身の将来像を展望する力。							
【評価基準・評価項目】 ・キリスト教入門を通して、自分が選んだのではなく、神に選ばれてこの学校に入学したことが理 解できる。 ・イエス・キリストの使命と生涯の前期を理解できる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	・ ミッションの意味		・ 聖書科で何を学ぶのかを知る				
5月	・ 礼拝とは何か，祈りとは何か ・ 賛美歌・聖書の成り立ちを知る		・ 主の祈りを覚える				
6月	・ 教会とは何か		・ 教会の三大祝日を知る				
7月	・ 教会の行事を知る						
8月 9月	・ イエスの誕生の地理的背景		・ 聖書のイエス誕生の物語の内容理解				
10月	・ イエスの受洗		・ 荒野の誘惑				
11月	・ イエスの弟子たち		・ 最後の晩餐		・ ゲッセマネの祈り		
12月	・ イエスの十字架		・ イエスの復活				
1月	・ 初めての聖書（旧約から・旧約から新約へ）						
2月	・ イエスのたとえ話		・ 山上の説教				
3月	・ 逆説の教え						

教科 科目	インテグレーション1	学 年	1年	単 位	1単位	担 当	1学年教師
<p>【教科・科目の概要】</p> <p>インテグレーションは、異なる教科の担当教師が協働で学年目標に沿った授業計画を作成して行う、本校独自の学校設定科目です。1学年の学年目標である「相手を理解し、認めることができる生徒の育成」を実践していくために、海外の国々と日本との比較をしながら具体的に広く世界のことを知り、日本と異なった文化についての理解を深めることを目標に学習をします。1学期前半は、旧師謝恩などの学校行事を通して、自分自身や身近な人への理解を広めていくために基礎的なことがらを学びます。1学期後半からは、日本についての知識を深め、訪日する世界各国の人々のニーズに合わせた提案を行っていくことで日本と世界の文化の違いを学び、情報を正しく理解し、整理・発信することができる力をつけていきます。また、リビングトーキングを通して、英語の基礎的な表現力を学ぶと同時に、実際に異なる文化について学びます。3学期は、自分たちが調べたことがらの発表を行います。発表の効果的なまとめ方や表現方法、客観的な相互評価や批評について学習します。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <p>目的意識や課題意識をもって必要な情報を集めることができる力</p> <p>情報を正しく理解し、整理することができる力、また、効果的に表現することができる力</p> <p>他者の良さを認め、他者から学びながら協力して活動できる力</p> <p>調べたことがらを効果的にまとめ、表現することができる力</p> <p>国際的な視野を拓げ、物事を客観的に捉え、互いに評価できる力</p>							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <p>必要な情報を収集し、それを整理、理解することができる。</p> <p>他者と協力しながら、テーマを設定し、課題解決に向けて取り組むことができる。</p> <p>自分の考えを効果的に表現できると同時に、相手の意見に対しても客観的に評価できる。</p>							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
1学期	<p>聞く力をつけるために、メモの取り方、ポイント（キーワード）のつかみ方を学ぶ。</p> <p>データや資料の整理や資料の読み取り方と効果的な表現方法を学ぶ。</p> <p>ブレインストーミングの意味を学び、それを活用する。</p> <p>日本の名所・文化について、世界に発信することを意識しながら調べ学習を行う。</p>						
2学期	<p>ブレインストーミングを活用した課題設定。</p> <p>課題解決に向けて、資料や情報を収集する方法を学ぶ。</p> <p>リビングトーキングを通してコミュニケーション能力と異文化を学ぶ。</p> <p>発表する時の効果的なまとめ方や表現方法を学ぶ。</p> <p>読解力・語彙力向上プログラムに取り組む。</p>						
3学期	<p>効果的な表現方法で発表ができるようにする。</p> <p>全体発表を通して、客観的な相互評価や批評ができるようにする。</p> <p>読解力・語彙力向上プログラムに取り組む。</p>						